

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

魅力があって、信頼される堺聴覚支援学校
～ 伝えあう 学びあう 育ちあう ～

個々の幼児児童生徒の障がいと学習状況に応じて豊かな言語力と生きる力を育むために、幼稚部・小学部・中学部の一貫した専門的支援を実施するとともに、「支える支援学校、支えられる支援学校」をめざし、地域と連携した特色ある教育の創造と大阪府南部における聴覚障がい教育のセンター的役割を果たす。

- 1 学校全体が人権尊重の理念を深く理解し、安全・安心で地域に開かれた学校づくりを推進する。
- 2 「個別の教育支援計画」に基づく指導を充実する。
- 3 専門的指導力の継承と発展を図る。
- 4 聴覚障がい教育のセンター的機能を充実する。

2 中期的目標

1 人権を尊重した安全・安心な学校づくりを推進する

- (1) 施設設備の安全点検、幼児児童生徒への安全指導を徹底し、突発的な負傷事故の発生を未然防止する。
- (2) 看護師と教員が連携して、医療的ケアを安全・適正に実施する。
- (3) 駅や通学路での事故の未然防止と児童生徒の交通マナーアップを図る。
- (4) 防災・防犯体制を充実する。
- (5) 豊かな人権感覚・人権意識を基盤とした教育実践を進める。

2 「個別の教育支援計画」に基づく指導を充実する

- (1) 「個別の教育支援計画」を活用し、豊かな言語力と確かな学力を育てる。
 - ・幼稚部では、生活体験豊かにし、確かな言語力を育む。
 - ・小学部では、習熟度別の教科指導を実施し、学力の積み上げを図る。
 - ・中学部では、各教科別の学力向上を図るとともに、各種検定試験にチャレンジし、資格の数を増やす(英語検定、漢字検定、パソコン検定)。
- (2) 将来を見据えたキャリア教育に取組み、自主・自立する力を育む。
 - ・幼稚部では、保護者に障がいの状況や就学に関する適切な情報提供をする。
 - ・小学部では、交流学习を通して、自らの障がい認識を深めると共に他者との関わりを広げる。
 - ・中学部では、多様な進路情報の提供や職場見学を通して、将来の自立を見据えた進路選択を支援する。

3 専門的指導力を継承し発展させる

- (1) 校内研修を充実する。
 - ・新転任者研修を充実する。
 - ・全教員が、聴覚管理と活用、発音指導及び多様なコミュニケーション手段について習熟する。
 - ・人工内耳について研修し、効果的な支援方法を検討する。
- (2) 授業改善を図る。
 - ・日常的な、相互研鑽、OJTを通じて授業改善を図る。
 - ・研究授業を通じて、授業力の向上を図る。
- (3) ICT機器を活用し、幼児児童生徒が理解しやすい学習環境を整備する。
 - ・ICT機器を授業において活用し、児童生徒の学力向上を図る。
 - ・幼児児童生徒が双方向で情報活用できる教育を推進する。

4 聴覚障がい教育のセンター的機能を充実させる

- (1) 聴覚障がい児に対する早期からの一貫した支援を実施する。
- (2) 通級による指導で学習効果を上げ、児童生徒の自信と意欲を向上させる。
- (3) 小学校等からの聞こえや言葉に関わる多様な相談に対し、適切な支援を実施する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>評価の高い項目：保護者（肯定的評価％）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 子どもは学校に行くのを楽しみにしている。(98.1%) ② 学習の内容・学校生活の様子を懇談会や学級（学年・部）通信、連絡帳などによって知ることができる。(94.4%) ③ 子どもは積極的に部活動に参加している。(中) (94.4%) ④ 学校から保護者に出される文書・事務連絡等は適切である。(92.6%) ⑤ 学校行事は、楽しく参加できるように工夫されている。(88.7%) <p>学校は、子どものことについて保護者の相談に適切に対応してくれる。(88.7%)</p> <p>学校は、避難訓練や交通安全指導などの防災教育・安全教育が行われている。(88.7%)</p> <p>評価の低い項目：保護者（肯定的評価％）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 環境、国際理解、福祉等について学ぶ機会がある。(37.0%) ② 子どもが他の学校の子どもたちと交流する機会を設けている。(42.6%) ③ 学校は進路についての必要な情報を知らせてくれる。(50.0%) ④ ICT機器が授業を始めとした教育活動に効果的に活用されている。(56.6%) ⑤ 学校のホームページを通じた情報発信に満足している。(59.3%) <p>一般的には、肯定的評価が高い結果となった。児童生徒においては、「勉強（授業）は楽しい」の肯定的評価が100%であった。しかしながら、保護者は、授業のわかりやすさの項目に関して肯定的評価が83.3%であり、子どもの評価と差があるとともに昨年度よりポイントが下がっている。さらにはほぼ全員の教職員が個別の教育支援計画や個別の指導計画により個々の状況や課題に応じた授業を行っていると考えているが、保護者は、個別の教育支援計画・個別の指導計画に関する項目で86.0%と意識の差がある。今後教育的ニーズに関して保護者とさらなる情報共有をするとともに、さらに専門性を高め、よりわかる授業づくりに向けた研修・研究が必要である。保護者評価が低かった項目①②③は昨年度と同じ項目であり課題が残った。とりわけ、幼稚部での評価が低かった。①については、遠足や日常の活動の中で自然観察や作物・植物を題材とした活動など、②については、個別の希望による地域の保育園等との交流、③については、5歳児学年での進路計画によるガイダンスや見学を中心に日常的に情報提供をしている。他学部においても、それぞれの計画により取り組みを行っているが、今後さらなる取り組みの充実を図るとともに、日常の活動の意味やねらいなどについて保護者との共通理解を深める必要がある。④については、計画的に機器の整備や活用を行っているが、より一層の授業での活用を図りたい。⑤については、フロントページの改修や内容の充実、更新回数の増（1月現在昨年比150%アップ）を図ってきたが、いっそうの迅速な情報発信と学校ホームページの周知に取り組みたい。</p>	<p>第1回（7月8日）</p> <p><学校経営計画について></p> <p>○安全・安心な学校づくりについて</p> <p>(1) 人権の配慮は大事である。まずは、聴覚支援学校の授業として、十分に情報保障をして、わかる授業に取り組んでほしい。</p> <p>(2) 安全・安心な学校づくりについて、学校が取り組む内容についてはよくまとまっていたと思う。今後、障害者の権利に関する条約等を踏まえて取り組む必要があるのではないか。</p> <p><指導の充実について></p> <p>(3) 学力をしっかりとつけることが最重要の一つで、一番の希望することである。</p> <p><キャリア教育の推進について></p> <p>(4) キャリア教育は大事であると思う。社会へ出た時に、意欲を持って就職や生活に積極的に取り組む生徒を育ててほしい。</p> <p>(5) 幼、小、中で一貫した教育支援について、中学部になってはじめて、幼、小でおこなわれていた意味が理解できるが、当時はなかなか理解できないことがあった。</p> <p>(6) 幼、小、中の一貫性教育を充実させることは、今後のろう教育での方向性であると思う。</p> <p>第2回（12月1日）</p> <p><学校経営計画の進捗状況について></p> <p>○防災体制について</p> <p>(1) 食料備蓄について、更に備蓄の量を増やすとともに、保存期間終了後の試食など防災教育に活用してほしい。</p> <p>○キャリア教育について</p> <p>(2) キャリア教育プログラムについて、小学生シートに将来の進路についての内容を盛り込むことでよい効果があると思う。</p> <p>○地域との連携について</p> <p>(3) 大学生の学習支援など外部の方との関わりができることは、将来に向けてよい経験になると思う。どんどん進めて欲しい。</p> <p>(4) 太鼓演技披露など外部での発表は生徒自身の自信につながり良いことと思う。</p> <p>○授業力向上について</p> <p>(5) 教材のライブラリー化については教育的実績があるので、よい取り組みになると思う。地域へのネットワークづくりや検索の方法など工夫してよりよいものにしていただきたい。</p> <p>第3回（2月15日）</p> <p>○全般について</p> <p>(1) 手話言語条例の広がりの中で、地域の学校より、濃密な教育を支援学校には望む。</p> <p>(2) 学校と保護者の良い関係で教育活動が行われていくと思う。さらに、学校と保護者が近い関係になればと思う。</p> <p>(3) 学校教育自己診断の質問の文言が答えやすいように平易な表現のほうがよいと思う。</p> <p>(4) 忙しい中、先生方は頑張っていると思う。チーム学校としての取り組みを進めてほしい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 安全・安心な学校づくりの推進	<p>(1) 負傷事故の発生を未然防止する。</p> <p>(2) 医療的ケアを安全・適正に実施する。</p> <p>(3) 通学時の安全指導を徹底する。</p> <p>(4) 防災・防犯体制を充実する。</p> <p>(5) 学校の人権尊重の理念の理解の深化と人権教育を推進する。</p>	<p>(1) ア P T Aと連携するなど安全点検を徹底し、危険箇所の改修・安全対策を講じる。</p> <p>(2) ア 対象児の医療的ケアを適切に実施する。 イ 教員を研修に派遣し、医療的ケアに従事できる者を増やす。</p> <p>(3) ア 通学路の安全点検を実施すると共に、児童生徒への交通安全マナーの向上を図る。</p> <p>(4) ア 近隣の学校などと連携した防災・防犯訓練や研修会を実施し、校内体制を充実する。</p> <p>(5) ア 人権をテーマに教職員研修やP T A研修を実施する。</p>	<p>(1) ア 重大負傷事故発生0件</p> <p>(2) ア 不適切な処置、連絡ミス発生0件 イ 認定従事者1名以上確保</p> <p>(3) ア 安全指導を年10回以上実施</p> <p>(4) ア 学校教育自己診断(職員)「事故や災害への対処の体制について」満足度80%</p> <p>(5) ア 3回以上の人権研修の実施</p>	<p>(1) ア 重大負傷事故発生0件。(○) ・P T Aによる安全点検実施 ・施設整備(中学部棟壁面安全ネット設置、小学部前通路安全ミラー設置、幼稚部棟スロープ滑り止め塗装等)</p> <p>(2) ア 不適切な処置、連絡ミス発生0件 (○) イ 認定従事者4名確保 (○)</p> <p>(3) ア・交通安全指導10回実施及び体験的教育技法を活用した交通安全教室の実施 (○)</p> <p>(4) ア 満足度88.3% (○) ・外部講師による防災研修実施(近隣学校職員参加)により、職員の地域防災の観点での意識の向上につながった。</p> <p>(5) ア・3回の職員人権研修実施。(参加者職員肯定的評価97.3%)により、情報共有やチームでの取り組みの大切さ、丁寧な言葉かけなど人権の観点から日常の指導方法について、見直すよい機会となった。 ・P T A人権研修3月2日実施 (○)</p>
2 指導の充実	<p>(1) 豊かな言語力と確かな学力を育てる。</p> <p>(2) 将来を見据えたキャリア教育に取組み、自主・自立する力を育む。</p>	<p>(1) ア 幼稚部では、生活体験を豊かにし、多面的な言語活動(聴く、話す、読む)に結び付ける。 イ 小学部では、学年対応の生活と教科学習を基軸に、習熟度に応じた指導を実施し、学力の積み上げを図る。 ウ 中学部では、各教科別の学力向上を図ると共に、各種検定にチャレンジし、資格の数を増やす(漢字検定、読字力、英語検定、パソコン検定)。 エ 教育的効果の検証する仕組みを検討する。</p> <p>(2) ア 幼稚部では、見学会や研修会を通じて将来の目標や就学に関する適切な情報提供をする。 イ 小学部では、居住地校交流に取り組み、自らの障がい認識を深めると共に他者との積極的な関わりを広げる。 ウ 中学部では、豊富な進路情報を提供し、希望進路の実現を図る。 エ 中学生シートを活用し、自立心を高める。 オ 地域資源や外部人材、学校ボランティアの活用に努める。</p>	<p>(1) アイウ 授業アンケート(保護者) 満足度80% イウ 確認テスト80点 漢字検定昇級者15人 イウ 定期テスト平均70点 各種検定昇級者20人 エ 検討し、試案を作成する。</p> <p>(2) ア 学校教育自己診断(5歳児保護者)満足度80% イ 居住地校交流実施者50% ウ 希望進路実現100% エ 活用生徒100% オ 地域資源を活用した取り組みの10回以上の実施</p>	<p>(1) アイウ 授業アンケート(保護者) (◎) ・幼稚部保護者満足度92.6% ・全校満足度93.3% イウ小 確認テスト平均89点 中 定期テスト平均71点 ・漢字検定 小学部8人昇級 (◎) 中学部15人昇級 ・各種検定 (◎) 読字力検定24人昇級・合格 英語検定3人昇級 パソコン検定3人昇級</p> <p>エ(中学部)生活・学習状況と定期テスト・各種検定の結果を関連させることで生徒が自己評価(小学部)中学生シートを参考に作成済み。2月中旬に試行。 (幼稚部)自立活動3領域についてそれぞれリーダーチャート化。(○)</p> <p>(2) ア5歳児保護者満足度80.0% (○) イ居住地校交流実施者40%(12人)24回実施 (○) ウ希望進路実現100%にむけ、学校見学会参加、職場体験等キャリア教育の観点を含めた進路指導を展開 (○) エリーダーチャートで視覚化し生徒自身が振り返ることで効果があった。活用100% (○) オ・図書館ボランティア・部活動ボランティア(貸出、整理などの業務・読み聞かせ、卓球指導など)、大学生を活用した夏休み学習会、読み聞かせサークルによる読み聞かせ会、堺市視覚・聴覚障がい者センターとの連携による和太鼓演奏)など10回以上実施 (○)</p>
3 専門的指導力の継承と発展	<p>(1) 校内研修を充実する。</p> <p>(2) 授業力向上を図る。</p> <p>(3) I C T機器を活用し、幼児児童生徒が理解しやすい学習環境を整備する。</p>	<p>(1) ア 新転任者が、聴覚管理と活用、発音指導及び多様なコミュニケーション手段、情報保障について習熟するよう研修を充実する。</p> <p>(2) ア 研究授業を実施し、授業力向上を図る。 イ 教材のデータベース化を進め、経験年数の少ない教員に活用させる。</p> <p>(3) ア 電子黒板やタブレット型P C等の活用を図り、ビジュアルでわかりやすい学習支援を推進する。 イ 文字情報システムの整備に取り組み、わかりやすい情報発信を進める。</p>	<p>(1) ア 新転任者アンケート 満足度80%</p> <p>(2) ア 研究授業10回実施 学校教育自己診断(職員)「聾教育の専門性の継承発展について」満足度80% イ 自作教材のライブラリーを作成する。</p> <p>(3) ア 学校教育自己診断(生徒)「わかりやすい授業について」満足度80% イ 学校教育自己診断(生徒)「文字情報は役立っている」満足度80%</p>	<p>(1)ア 満足度88% (○) ・新転任者研修11回実施及び首席を中心とした初任期層対象のホワイトボードミーティングの実施により、首席の人材育成に関する意識が向上し、対象教員のニーズにあった研修が実施できた。</p> <p>(2)ア 満足度86% (○) ・研究授業(保育)10回実施 ・学期に1回実施の公開授業(保育) ・計画的な全校研修と部研修の実施により、教員の全般的な一貫した教育活動への意識醸成と部別課題に対応した研修活動が充実した。 ・外部人材(聴覚障がい教育S V、心理士、府リレーディングスタッフ)による授業観察及び面談などを通じた専門性向上に向けた研修(13回実施)を実施することで、教員のより適切な子どもに関する課題目標や実践の評価に繋がった。 イ50件のデータベース作成。うち30件をH Pにより情報発信。(◎)</p> <p>(3)ア 満足度100% (○) イ 満足度94.1% (○) ・校内文字情報システムのモニターを20台増設</p>
4 センター的機能の充実	<p>(1) 早期からの一貫した支援を充実する。</p> <p>(2) 通級による指導で学習効果を上げ、児童生徒の自信と意欲を向上させる。</p> <p>(3) 小学校等からの聞こえや言葉に関わる多様な相談に対し、適切な支援を実施する。</p>	<p>(1) ア 病院や通所支援センターと連携して、早期教育相談を充実する。</p> <p>(2) ア 通級による指導において、個々の児童生徒の課題に応じた聴能学習、発音指導、教科指導を充実する。 イ 小学校等からの聞こえや言葉の相談を充実する。</p> <p>(3) ア 必要な巡回相談や聴覚障がい理解の講師派遣を行う。 イ 聴覚障がいに関する研修開催など、難聴学級との連携を強める。</p>	<p>(1) ア 年間のべ700件 早期教育相談(保護者)アンケート 満足度80%</p> <p>(2) ア 通級指導(児童生徒・保護者)アンケート 満足度80% イ 相談件数120件</p> <p>(3) ア 巡回指導、講師派遣 合計30件 イ 研修会参加者の満足度80%</p>	<p>(1) ア・581件 (○) ・満足度100% 対象児44人に継続して教育相談を行い、うち27人に継続して教育相談を実施した。</p> <p>(2) ア・満足度99.6% (○) 対象児童34人に個別のニーズに対応した指導・支援ができた。</p> <p>イ・263件 (○) (3) ア37件 (○) イ満足度85% (○)</p>